

2013年産カリフォルニア・アーモンド市況



2013年産カリフォルニア・アーモンドは、南部・中部地区で早生種ノンパレルの収穫がほぼ終了し、9月中旬からはピュート種やカーメル種の収穫がスタートしています。

7月1日に発表されたNASS(米国農業統計局)の最終予想では、2013年産は18億5千万ポンドと予想されていましたが、ノンパレル種については多くの地区で昨年より5~10%の増産、その他の品種(カリフォルニアタイプ等)は、ほとんどがやや減産となる為に相殺され、実際の収穫量は18億5千万~19億ポンドとなるとの見方が一般的です。

また、サイズについては当初、記録的な小粒傾向と予想されていましたが、ノンパレル種については23/25以上の大粒はほとんど収穫できていないものの、中部や北部地区では、25/27サイズが全サイズの20%程度、27/30サイズが30~35%程度を占めており、全生産地でもノンパレル種の中心サイズは27/30サイズ程度と、極端な小粒ではないようです。但し一方で、ピュート種については34/36サイズ以下がほとんどと、極端な小粒傾向であり、カーメル種についても27/30以下の小粒が中心となる模様です。

従いまして、ノンパレル種に関しましては、大きな価格変動がないものの、スライスアーモンドやスリパードのようなカーメル種を原料として使用する商品は、価格が値上りしており、大手パッカーのスライスアーモンドはポンドあたり4ドル以上まで値上りしています。

今後の相場については、中生、晩生種の収穫がすすむにつれて何らかの動きがあると思われませんが、高値が続いている状況から中国も含め、各国が当用買いを続けており、また最需要国の一つであるインドも、為替が米ドルに対してインドルピー安となり輸入コストが値上りしている状況から大口の買付けはしておらず、当面は先行き不透明な中、売り手と買い手の駆け引きが続きそうです。

